

# 日本作業療法教育研究会ニュース 第 69 号

2019年 8月 15日発行  
日本作業療法教育研究会

＝紙面案内＝

- 1 面 : 会長挨拶
- 2 面 : 日本学術会議について
- 2～4 面 : 新理事紹介
- 5 面 : 事務局からのお知らせ

事務局

〒171-0033 東京都豊島区高田 3-6-18

日本リハビリテーション専門学校 作業療法学科  
近野 智子

TEL:03-5954-6511 (代表) FAX:03-5954-6544

E-mail otkyoiku@gmail.com

## 会長あいさつ

佐藤善久（東北福祉大学）

この度、四半世紀の歴史を持つ日本作業療法教育研究会の会長に就任させて頂きました。歴代の会長をはじめ諸先輩方の地道な努力と活動をもとに発展してきた本会も、日本学術会議から日本学術会議協力学術研究団体（協力学術団体）として指定を受け、本会の名称も2019年度より「日本作業療法教育学会」に変更（2018年度の総会で承認）になりますので、作業療法教育の更なる発展のために社会的な使命を感じつつ貢献できる会として成長をしていきたいと思っています。

さて、次年度より改正された作業療法士養成施設の指定規則の本格運用が始まります。また、2016年には、WFOTの作業療法士教育最低基準（MSEOT2016）の見直しも行われ、教育内容や教育方法、臨床実習の在り方、教員の資質などの基準が明確に示され、WFOT認定校としての質の担保が求められています。その中で各養成校の先生方は、そのカリキュラム内容やその運用方法について検討をされていることと思います。特に臨床実習は大きなインパクトのある改正であったこともあり、養成校の先生方と共に臨床実習指導者の先生方にとっても視点の変更が求められていると感じるかと思います。また、海外の教育事情を伺うとMSEOT2016により、従前とは異なる作業療法士の育成や質保証の基準を構築しつつあると伺っています。質の高い作業療法士の養成と育成には、養成校の教員のみならず実践の場で教育に携わる先生方、日本作業療法士協会、教育関係団体との協働作業が必須となります。これまで以上に生涯教育の観点から人材（人財）育成する教育システムを考える時と認識しています。

本会は、上記のように作業療法教育に関する学術団体として登録されたことの意味を十二分に認識し、学術活動をさらに推進していくと共に作業療法士の質の向上のために寄与する団体として活動して参りますので皆様方の本会へのご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 日本学術会議について

昭和大学 保健医療学部 三橋幸聖

この度、日本学術会議から日本学術会議協力学術研究団体（以下、「協力学術研究団体」）の指定を受けました。この日本学術会議は「科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年（1949年）1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。」とあります。日本学術会議の役割は、主に政府に対する政策提言、国際的な活動、科学者間ネットワークの構築、科学の役割についての世論啓発が示されています。そして協力学術研究団体は、日本学術会議との間で緊密な連携・協力関係を持つことを目的とし、日本学術会議から各種情報伝達や会議の共催や後援などが行われます。（日本学術会議 <http://www.scj.go.jp/ja/scj/index.html> より引用）

この協力学術研究団体は、例えば科学研究費補助金制度で研究成果公開促進費があり、これは学術振興の促進や研究成果の公的流通の促進を図る目的で助成が受けられるものですが、その申請の応募要件に協力学術研究団体が示されていることから、一定の水準を満たした学術団体との位置づけとなっていると考えられます。

このように、本会が協力学術団体の指定を受けたことによって、学術的価値の高い団体として広く認知されるとともに、今後の学術活動の幅が広がっていくことが期待されます。

## 新理事紹介

### 作業療法教育研究会の新たな体制が決定しました。

#### ① 名前（担当） ② 所属 ③ 理事の抱負



- ① 佐藤善久（会長）
- ② 東北福祉大学
- ③ この度、前会長宮前先生の後任として会長の任を受けさせて頂くこととなりました。本会の歴史と積み重ねてきた実績を大切に更に本会が発展して行けるよう努めて参りたいと思います。本会は、近年の学術集会の充実により会への参加者の増加や日本学術会議協力団体として登録されたことで、作業療法教育における責任の重さも強く感じます。微力ながら更なる会の発展に寄与したいと思っていますので何卒ご協力とご支援宜しくお願いいたします。



- ① 近野智子（副会長、事務局長）
- ② 日本リハビリテーション専門学校
- ③ この度、研究会の事務局長を務めさせて頂くことになりました。当研究会は日本学術会議協力学術団体に登録され、今後ますます作業療法教育の発展に寄与することが求められます。当研究会の活動を通して、会員の皆さまの作業療法教育に関わる研究、研修、教育実践がより充実したものになるよう、微力ではありますが事務局として力を尽くしていきたいと思っております。また、自分自身も教育者として成長したいと願っております。



- ① 古山千佳子 (副会長, 機関誌編集担当, 事務局)
- ② 県立広島大学
- ③ 理事として2期目を務めさせていただきます。1期目の2年間は事務局の仕事を担当しました。不手際な面が多く、色々ご迷惑をおかけしました。今期より主に機関誌編集担当を務めさせていただきます。今、作業療法教育は大きな転換期を迎えようとしています。作業療法および作業療法教育がより良い方向に向かって進んでいくよう、微力ながら力を尽くしたいと思います。よろしくお願いいたします。



- ① 酒井ひとみ (学術集会担当 コンピテンシーWG)
- ② 関西福祉科学大学
- ③ 今期は、作業療法教育に関連した教材や手引きの情報の共有システムの可能性を探っていきたいと思います。



- ① 宮前珠子 (理事・企画担当)
- ② 聖隷クリストファー大学
- ③ 2018年12月、日本学術会議協力学術研究団体への指定が決まりました。このメリットの一つは、多くの大学院が博士論文や副論文の投稿先として上記団体の機関誌であることを条件としているところにあります。「作業療法教育研究」に、多くの学位論文が投稿されるようになることを心待ちにしています。なお今期、私は企画を担当させていただきます。



- ① 藪脇健司 (ホームページ担当)
- ② 吉備国際大学
- ③ 理事2期目となりました。先日の第23回学術集会では、多くの皆様からご協力をいただき、盛会の内に終了致しました。ここでいくつかの新しい取り組みを次回の学術集会に継承し、さらに発展するよう努力していきたいと思います。また、日本学術会議の協力学術研究団体に指定されたこともふまえ、本会が学術団体としてますます発展するよう、インターネットを用いた効果的な学会活動についても模索していきます。会員の皆様のお力を借りつつ検討していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



- ① 小川真寛 (機関紙担当)
- ② 京都大学、京都大学医学部附属病院
- ③ 今年度より機関紙の編集委員長を担当しております小川です。初めてで慣れない編集ですが、機関誌の年2回の安定的な発行を目指して活動しております。学術会議の登録にも重要であった機関紙も今回の登録を受けて発展させていかなばと改めて感じております。それも、皆様からの今まで以上の機関誌への投稿を心待ちにしております。



- ① 三橋 幸聖 （事務局担当）
- ② 昭和大学
- ③ この度、事務局担当として2期目となります。理学療法士作業療法士養成施設指定規則の改正で、特に臨床実習に関してこれまで以上に合理的な教育的視点に基づいた取り組みが求められています。こうした中、日本学術会議協力学術研究団体の指定を受けることができましたので、作業療法教育の学術的基盤をさらに高め社会の期待に応えることができるよう、微力ながら貢献したいと考えております。よろしくお願いいたします。



- ① 小林幸治 （機関紙 学術集会担当）
- ② 目白大学
- ③ 理事2期目となります。前期は研究会誌の編集をさせていただきました。今期は2019年度の学術集会を担当します。作業療法士を育成する行為やシステムの中で検討しなくてはならない課題をじっくり皆さまと検討する機会にしたいと思います。私は大学の臨床実習担当という立場柄、多くの実習施設に行きます。臨床の先生方に実習指導について助言する際、用いる言葉はこれまで指導者や学生から学んだ経験が元になっています。こうした経験を発表し合い検討する事で、互いに教育力を向上させたいとよく考えます。それではよろしくお願いいたします。



- ① 西井正樹 （ニュース担当）
- ② 白鳳短期大学
- ③ 今期も引き続きニュースを担当させていただきます。この2019年は作業療法教育にとっても、臨床実習指導においても変革の時期だと思っています。ホットな情報を会員の皆さまに送っていただけたらと考えています。よろしくお願いいたします。



- ① 東川 哲朗 （監事）
- ② 金沢脳神経外科病院
- ③ 作業療法が定義・指定規則改正、臨床実習の改革と、大事を迎えている。加えて本会は研究会から学会へ飛躍します。そんな折りに監事再任のお話をいただきました。本会に入会18年、大半を臨床実践の立場で関わっている。今まさに養成校と臨床現場が共に教育について熱心になるときであり、その両者の繋ぎ役になればと思っています。作業療法教育の発展に向け、理事の皆様を補佐していければと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



- ① 古川宏 （監事）
- ② なし（神戸大学名誉教授・神戸学院大学名誉教授）
- ③ 日本学術会議の会員になったことで、学術団体として認められたことは慶賀なことです。相応しい研究会として作業療法教育の研究、実践に貢献して全国の養成校、臨床実習施設の会員に発信できる会になっていくように今後も尽力したいと思います。監事として、研究会の財務状況、役員活動の監査を今後も引き続き厳格に行いたいと思います。

# 事務局だより

【じむきょく】 - 事務局よりお知らせ -

## 会員募集のお知らせ

作業療法教育研究会では、会員を募集しています。

この会は、教育現場における様々な問題を解決・提起していく研究会です。年に1回の学術集会・学術誌の発刊や年3回のニュース発行が主な活動です。教員同士の横のつながりを大切に日々の教育における悩みを解決していきましょう。入会をお待ちしております。

入会金:1000円 年会費:3000円 現在会員数:242名 賛助会員:1  
振込口座 郵便振替 01320-2-58224 日本作業療法教育研究会

学術大会:2019年10月12日~13日  
場所:日本リハビリテーション専門学校

### 問い合わせ先

〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-18 日本リハビリテーション専門学校 作業療法学科 近野 智子  
TEL:03-5954-6511(代表) FAX:03-5954-6544 E-mail otkyoiku@gmail.com

## 「作業療法教育研究」投稿原稿募集のお知らせ

日本作業療法教育研究会では、機関誌「作業療法教育研究」の発刊を年2回行っています。広く会員の皆様からの論文の投稿をお待ちしております。機関誌にあります投稿規程をご覧ください。規定に沿って準備し事務局あてにお送りください。ご不明な点などございましたら、研究会事務局までお問い合わせください。なお、査読は受付日順に行います。原稿受理日によっては、次号の掲載になることもありますので、あらかじめご了承ください。

(ホームページ <http://www.joted.com>)

### OT 教育研究会ニュース メール配信します！

OT 教育研究会ニュースのメール配信を始めました。情報をより早く、お届けすることができます。これまでの郵送からメール配信へ切り替えご希望の方は下記メールアドレスまでご連絡ください。なお、登録いただいたメールアドレスには学術集会のご案内など本研究会のいろいろな情報をお送りしていく予定です。ホームページもあわせてご覧ください。

[otkyoikunews@gmail.com](mailto:otkyoikunews@gmail.com)

### 編集後記

とうとう始まりました「臨床実習指導者講習会」が各都道府県士会で開催されています。私が所属する士会でも9月に行われますが、募集したところすぐに定員オーバーになり、せっかく申し込んでいただいた方々には、大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。これは、養成校の問題ではなく、職能団体として、未来の作業療法士育成のために、作業療法士が一丸となって取り組むべき課題だと思っています。(西井正樹)